

目次

ごあいさつ	2
1 女性委員会のしくみ	6
2 女性委員会のあゆみ	7
3 女性部会 主な活動	11
4 研究部会 活動記録	16
[1] ユニバーサルデザイン研究会	
[2] 木構造木造住宅研究会	
[3] よろず建築文化研究会	
[4] 見学研究会	
[5] 家族と住まい方研究会	
5 普及啓発部会 活動記録	29
6 女性委員会 30周年記念事業	32
阪神甲子園球場見学会報告	
高砂神社能舞台工事現場見学とまち歩き	
伝統芸能～能～の空間世界を体感する	
会員アンケート結果	
7 寄稿～女性委員会への応援メッセージ	43
8 役員名簿	44
編集後記	45

女性委員会の歩みとこれから

女性委員会委員長 八木 景子

今から 30 年前、1983 年(昭和 58 年)5 月、全国に先駆けて 女性委員会の前身である女性部会が 35 名前後の人数で、設立されました。

当時から現在まで、女性会員同士の交流促進を目的にしながらも、①孤立しやすい女性建築士の経験や情報を分かち合い、②家庭生活・社会活動と建築士の活動のバランスをとりながら、研究会等を開催し、③自らの研鑽もしつつ社会への情報発信を行うとともに、④近畿圏・全国につながって活動を行うことで、⑤女性建築士、ひいては建築士会の幅広い活動を社会へアピールできる活動を、その時々々の社会情勢に柔軟に対応しながら行ってきました。

設立から 20 年後の 2003 年(平成 15 年)には、女性会員数も 188 人までとなりました。

この年から女性委員会は、県内会員への情報提供や・近畿・全国の建築士と交流をはかる「女性部会」・女性の視点を大切にしながら、建築士の資質向上を目指すための研究会活動を支える「研究部会」・建築士としての知識や経験を市民・地域へ発信する活動を支える「普及啓発部会」の 3 部体制を柱に、現在まで活動を続けております。

設立当初の会員 35 名ほどの時代から、30 年後の現在は、会員数 108 名となっておりますが、士会全体の会員数に占める女性会員の割合は、およそ当初から 6%前後で推移しています。以前と比べて、建築士の数も女性建築士の活躍の場も増えているので、社会もその活動を求めている時代となってきたのだと感じます。

日々の仕事の中で悩みを持っているのは、女性も男性も同じではないかと思えます。同じ問題も女性目線から解決できることはたくさんあると思えます。だからこそ、諸先輩方からの知恵や新しい情報を共有して、ともに解決していけたらと思って活動をしています。

年々、研究会への男性の参加も増え、互いの違う目線で一つの事を考えることで、見つかる答に新鮮な驚きを感じることもあります。ぜひ、男性会員の方々も研究会やセミナーにご参加ください。

社会全体の動きもめまぐるしく、建築士会も今年から公益法人となりました。私たち委員会も、今後どのように変化していくかわかりませんが、「しなやかに・・・たおやかに・・・」

女性建築士として、建築士会の皆さまとともに、社会へ貢献し続けられるような活動を続けていきたいと思っています。



◇30 周年に寄せて◇

女性委員会のさらなる飛躍を！

公益社団法人兵庫県建築士会 会長 安田 丑作

女性委員会の設立 30 周年、誠におめでとうございます。これまでの弛まぬご努力によって、女性建築士の地位の向上とともに活発な建築士会活動が日々続けられてきていることに、心からの敬意を表します。

女性会員相互の連帯と親睦を深め、県内、近畿、そして全国レベルでの交流促進を図る「女性部会」を基軸にして、建築士としての知識・経験を活かして広く市民・地域に向けて情報発信する「普及啓発部会」の多彩な活動、さらには、ユニバーサルデザイン研究会、木構造木造住宅研究会、よろず建築文化研究会、見学研究会などの「研究部会」の活動は、建築士としての自己研鑽と技術向上とともに、建築士を市民生活のなかでより身近なものとして認めていただく上で、多大な貢献をいただいていると思っています。

昨年創立 60 周年を迎え、本年度から公益社団法人として新たな歩みをはじめた私たち兵庫県建築士会にあって、地域社会と積極的にかかわり貢献する活動が、これまでも増して重要になってきています。その際、それぞれの委員会活動あるいは支部活動相互の連携をいま一度見直して、内外により開かれた運営が求められましょう。

そうしたなかで、女性委員会がますます発展、飛躍されることを心より祈念しています。



おめでとうございます 30 周年

担当副会長 宮宅 勇二

兵庫県建築士会女性委員会が設立されて 30 周年、誠におめでとうございます。

30 年前は、建築業界は男社会であったように、我ら建築士会もそうでした。それに、風穴をあけ、一つ新しい風を吹き込んでくれたのが、あなた方女性委員会だった、と思います。人間が生活する上での 3 つの要素である衣・食・住において、住を造ることに関してのみ男性がほとんどを占めてきました。が、これからは造る方も大いに女性の力が入っていくべきだと思うのは私だけではない、と考えるところです。



長く続けられている「ユニバーサルデザイン研究会」、木造の基本的な勉強会「木構造住宅研究会」、建築文化の見分を広める為の「よろず建築文化研究会」や、市民や地域に向けての女性建築士としての意見、情報発信に取り組む姿を見ると、その実力の確かさと、積極的な姿勢に感心せずにはいられません。

今後ますます社会において、女性の力が必要となってくるに違いありません。現在の安倍政権においても、企業において女性幹部を増やすことが企業を活性化することにつながり、それは日本をも活性化していく、と明言しているように、建築業界においても今後はこれまで以上に女性の意見と感性を取り入れていかなければならない、と思います。そうであるなら、女性の建築士は資質の向上にますます磨きをかけていかなければ、その要望に応えられない、ということになるでしょう。

これからも女性委員会の活躍に期待すると共に、一般市民だけではなく、建築士会員(男性)や、建築関係他団体にも参加を呼びかけていただきたいと思います。また、女性の力を増すためにも、女性会員を増やす努力もしていただきたい、と希望して挨拶とさせていただきます。

◇諸先輩方々からのエール◇

女性建築士の活動に期待すること

中川 俱子 ((株)アルプラン)

私は今、NPO「アーツプロジェクト」に参加。アートが人の心にもたらす作用によって病院や福祉施設などの療養空間をより快適にかえていこうという取り組みです。



患者と医療者とアーティストをつなぐこと、ホスピタルアートというのはみんな考え、ともに作りあげるものという、基本的な考え方で仕事をしている。

最近、兵庫県光風病院でホスピタルアートの仕事をした、色彩計画、家具の選定、中庭の設計、壁画、絵画の選定、ワークショップ等、多彩なメンバーの協力で竣工することができた。

メンバーは現代美術作家、造園デザイナー、フェルト作家、家具デザイナー、照明デザイナー等、いろいろの分野の人たちです。

約3年間かかったが、病院の環境はあたたかく、木の香りがするような雰囲気に変化した。

環境芸術の先進国スウェーデンでは病院の建設費の1パーセントをアートにかけることが義務になっているという。大多数の人にとって、誕生と終わりになりうる場所、もっと議論されても良いと考えている。

アートの世界は女性が多く、活躍している、建築の世界でも女性が増えてはいるがまだまだ、活躍するのが困難な状況であ

る。しかし、今後、住宅・医療・環境の分野で、特に女性の力を伸ばしていくことができると思う。

(昭和58～昭和61年度 女性部会 部会長)

女性部会の立ち上げ

鍵野洋子

1982年10月、たぶん最初の話合いを行った。参加者は記録していない。同年12月、土会事務局長と水谷長清氏(神戸支部)を含めて、準備のメンバー6人が集まった。立ち上げの当初は神戸支部が支援する、東京土会が女性部会立ち上げを始めているの



で、兵庫も立ち上げようと言うことであった。まずは、そのような集まりに参加したいかと、女性と思われる名前の方に尋ねたところ、アンケート送付時点で3名の会員が退会し、残りの30名の方は、前向きであった。東京と違い、なにしろ小所帯なので、まとめも早く、'83年1月には、発意書を作成し、2～3回の打ち合わせを経て、2月には女性部会発会式を行い、3月には、女性部会規約を作成し、4月には予算書を作成し、未加入者への呼びかけを行い、4月には総会に報告した。

本業や子供の学校で忙しく(もちろん家事も・・・)、ゆっくり考えたり、女性会員と何度も協議したり、周到に準備する暇がなかったのである。多少雑ではあったが、結果として、全国建築士会最初の女性建築士の集まりとなった。当初話があったとき、忙しいのに勘弁して欲しいと思ったが、結果としては豊かな中年～老年?人生を送ることができたようである。猪突猛進も捨てたものではない。女性部会記録ファイルはあまりにも多かったので、昨年、転居時に廃棄した。

(昭和62～平成2年度 女性部会 部会長)

当手を振り返って

武野 朋子

(巴建築設計事務所)

鍵野前部会長よりバトンを引き継いだ1991年は、バブル景気崩壊の年といわれています。しかし、建



築界を含め世の中まだまだバブルの余韻が残っていました。前年に設立された近畿女性建築士連絡協議会あるいは全国女性建築士連絡協議会では、他府県での女性部会設立が次々と報告されていましたし、男性中心の建築界にあって女性建築士としての情報発信ができるという明るい雰囲気に満ちていたのです。

講習会、見学会、住まいの研究会そして部会報「とおく」の発

行により、会員数は 30 余名から 90 名ちかくに増加していました。1992 年に兵庫県で開催される全国大会の準備、その後の女性部会 10 周年記念イベントの準備と世話役一同大忙しの毎日でした。記念イベントのメインテーマ「女性建築士は今！」のもとに 3 分科会のテーマは「素敵に生きるための仕事」「高齢化社会とすまい」「環境問題に関わる建築士」でした。当日は他府県からの参加者に男性会員の参加者と総勢 49 名となりました。事前に一級建築士名簿あるいは建築士実態調査名簿を手掛かりに女性と思われる名前の方々 450 名にアンケート調査し、109 名の回答をいただいたのも女性建築士に対する関心が大きかったのだと思います。1 期 2 年間の短い期間でしたが思い出に残る 2 年間となりました。

ご協力いただいた皆様方に感謝しております。

(平成 3～平成 4 年度 女性部会 部会長)

阪神淡路大震災の衝撃

野崎 瑠美 (株遊空間工房)

当時女性部会は、発足から 10 年を経て部会員数は 86 名となっていました。任期を終える 4 年後には 150 名を超え、丁度、女性の社会進出が目覚ましくなって女性建築士の数も飛躍的に増えてきた時代を過ごしたことになります。



部会長時代の最大の出来事は、平成 7 年 1 月 17 日に起こった阪神淡路大震災です。淡路を震源とする地震は、神戸を中心に大打撃を与えました。建築士会ではすぐに応急危険度判定を他の建築団体と分担して行い、他県からもボランティアが駆けつけてくれました。当時士会事務局は西神中央の兵庫建設会館内にあり被害がなかったことは幸いでしたが、市民から殺到する診断依頼電話等の手伝いにしばらく車で通ったものです。多くの木造家屋が押し潰され、鉄筋コンクリートのビルでさえ倒壊している状況は信じ難いもので、建築に携わる者はその責任と役割を果たすべく超多忙の日々を過ごしました。もちろん破壊され瓦礫となった建物は多くの課題を与え問題意識を高め、それぞれが進んで成すべきことに励みました。女性部会では「住まいの研究会」が活発に活動し、「環境と共生する住まい」をテーマに研究を続け、次々と冊子を発行できたのも女性の視点が支えだったからでしょう。

女性委員会が 30 周年を迎え、今後組織としての形は変わって行っても、受け継がれてきた本質を見ようとする女性の視点が更に生かされることを願っています。

(平成 5～平成 8 年度 女性部会 部会長)

女性委員会への思い

正木 恵子 (正木建築設計事務所)

30 年前、福岡で学生生活を過ごしていた私は、ある新聞記事を興味深く読み耽りました。それは、全国に先駆けて産声を上げた兵庫県建築士会の女性部会の紹介記事でした。建築の道を歩む先輩女性達の姿に、強い印象を受けたことを今も鮮明に覚えています。その後、縁あって神戸に住む身となり、その女性部会の一員となりました。



女性部会では多くの方々との出会いを通して自分の世界も広がり、建築や仕事のこと、女性の生き方など、様々なことを学ぶことが出来ました。女性部会長も経験させて頂きましたが、これに関しては皆様のご支援を頂いて何とか務めたというもので、今も感謝の思いだけで一杯です。

こうして思い出を綴りながら改めて思う事は、女性委員会は、「女性」・「建築」をベースとした緩やかな連帯の中に身を置くことで、女性としてのキャリアや人生について自然に学び、吸収出来ると共に、活動を通して社会貢献にも繋がる場であるということでした。

さらに、女性建築士(=マイノリティ)としての視点や切り口から萌芽した活動を、事業として外部へも展開する事で、建築士会の新たな風土の醸成と人材の育成の一翼を担っているとも言えるでしょう。

現在も、女性委員会が皆様のご尽力で活発な活動を続けている事は嬉しい限りです。時代が変わっても、“人”と出会える素敵なこの場所を、「しなやかに、たおやかに」活用されて行かれる事を祈っています。

(平成 9～平成 12 年度 女性部会 部会長)

賑やかだった当時は思い出します

平内節子(MAI 建築工房)

平成 14 年 丁度 20 周年を迎えた年でした。当時は 185 名の会員に、神戸・阪神・加古川・姫路・社(現在北播磨)・豊岡、各地から 15 名の委員が集まり、活発に活動していました。役員会～住まいの研究会と一日仕事でしたが、その会場を各地で開催し見学研修会も兼ねて移動会議を楽しみに



出向いたことを覚えています。住まいの研究会の集大成として「循環する木の住まい」と題したパネルを作成し、翌年からそのパネルは各地に巡回して展示されセミナーを開催しました。また秋には県士会 50 周年記念事業として青年・女性合同事業を明石のリハビリテーションセンターにて開催。その開催に向けて何度か合同会議をもち、青年と女性の活動コンセプトの違い

を痛感したのもこの時でした。年明けて”コンチエルト”にて船上懇親会。また、次年度 7 月に兵庫で開催される全国女性建築士連絡協議会の準備に入っていました。それぞれに充実した事業を開催することができ、委員の皆様には本当に感謝の気持ちで一杯です。

また、女性部会の形態最後の年であり、平成 15 年から委員会体制になるため、年度末には諸先輩にもお集まりいただき、委員会への移行の件で再々会議を持ちました。そこで現在に至る 3 部会形式が発足しました。

連合会にも参加させていただきながらしみじみ感じたのは、いかに兵庫女性委員会が真面目でコツコツ研究熱心な方々の集まりかということでした。正に発足当時の諸先輩から引き継がれた精神だと思います。この全国にも誇れる我ら女性委員会、兵庫気質を受け継いで活発な活動を期待しています。(平成 13～平成 14 年度 女性部会 部会長)

女性建築士の視点は世界を変える

鈴木洋子(住教育支援チーム代表)

この夏話題のドラマ「半沢直樹」。正しいと思うことをはっきりと伝えることが彼の魅力のひとつ。でも彼が力強く歩めるペースには、多彩な人脈とネットワーク力があるのではないだろうか。女性委員会の活動に参加して 26 年になるが、良かったと思えることはまさしくこの人脈が広げられたこととネットワークの方法を学べたこと。



国連の国際居住年という 1987 年、いきなり「住の調査研究」担当となった。手探り状態の時、<女性建築士が『すまい女の眼』を發行>という新聞記事を見て、建築士会に入会した。まだまだ男社会の環境の中真摯に研究学習する先輩の姿勢がまぶしかったことを思い出す。その後仕事内容は変わったものの女性委員会の活動で学んだこと(高齢者問題、環境問題など)は自分自身の仕事観・生活観を育てるのに大きな役割を果たしたと思う。

2003 年女性部会から組織改革した時に委員長を引き受けることとなった。私が意識したのは「士会内部への女性委員会活動の認知」「男女を問わず女性委員会の活動への参加拡大」「これまでの活動蓄積の発信」だった。特に常に先見の明で地道に研鑽してきた成果を、自分たちだけのものとせず一般市民へ公開してゆこうという気風は大きく育ち現在につながっていると思う。

しかし、外部へ自信をもって発信するためには、しっかりした成果が必要不可欠。豊かな研究活動や交流活動があって初めて、女性委員会として共有の成果を蓄えることができるもの。そして「健康な住まいを考える会」「住教育支援チーム」などのよ

うに女性委員会活動で孵化された活動がこれからもどんどん羽ばたいてゆくことを楽しみにしたい。

(平成 15～平成 18 年度 女性委員会 委員長)

女性ならではの活動を

常俊 桂子

母が大病を患ってすぐだったので、ご迷惑をおかけするからとお断りしていたのですが、みんなでフォローするからということでお引き受けした委員長就任で、結局 2 期 4 年居座ることになりました。



女性だけで集まる委員会は最早や必要ないのではという風評の中で、本部理事会への出席は緊張ものでしたが、意外や意外、本部の女性委員会の活動への期待の大きさに驚いたものです。それで、4 年前から始まった 3 部会制を発展させるべく、研究会・見学会などの会員向け事業を継続し、支部との交流も深め、市民対象のセミナー・ワークショップなどで社会にも発信し続けてきました。女性委員会の活動は男性主体の活動とは一味違って、生活につながるテーマ選び、計画のきめ細かさ、活動に対するまじめさやコツコツ続ける根気強さ、責任感の強さなど、女性特有の長所が活かされていることを感じます。今後も女性ならではの活動を続けてください。

たいへんだったのは、諸連絡がメールに移行してきたことで、私など要領が悪くて半日以上パソコンの前に座っていることも多々ありました。各事業の人集めや、他にも何やかやとありましたが、各委員の努力と団結のおかげで女性委員会が空中分解することなく、次の委員長にバトンタッチできて、今はホッとしています。会員減少の影響で士会全体の予算もきつなくなりましたが、女性委員会の予算は逆に増えるような活動を展開されますよう期待しています。

(平成 19～平成 22 年度 女性委員会 委員長)

1 女性委員会のしくみ

(公益社団法人) 兵庫県建築士会 女性委員会 2013年 30周年を迎えました!! (1983年設立)

会員数 109名(2014年1月現在)

【女性委員会の現体制】

女性部会

女性会員への情報提供とともに、
会員の連帯と親睦を深め、女性建築
士のさらなる地位向上をはかる

- 県内女性会員の交流促進
- 近畿や全国の女性建築士との交
流の促進



会員交流

女性会員

建築士会

市民・地域

市民・地域へ発信



建築士の資質向上

研究部会

女性の視点を大切にしながら、
建築士としての研鑽・技術向上の
ための研究会を継続して開催
(男性も参加できます)

- ユニバーサルデザイン研究会
- 木構造木造住宅研究会
- よろず建築文化研究会
- 見学研究会 など



【問合せ先】公益社団法人 兵庫県建築士会 事務局 担当 桂

〒650-0011 神戸市中央区下山手通4-6-11 エクセル山手2階

HP : <http://www.hyogo-aba.com>

E-mail : info2006@hyogo-aba.or.jp / Tel : 078-327-0885 / Fax : 078-327-0887

2 女性委員会のあゆみ（平成21年度～25年度）／2010年4月～2014年3月

■平成21年度

委員会	4/18、6/6、9/5、11/7、1/30、3/6
女性部会	<p>1) ブロック見学会&社支部との交流会 9/12 参加者 25名 ～北播磨の建築とまちなみの魅力を探る～ 旧来住家住宅、西脇小学校、小野浄土寺他 案内:社支部内藤正克氏</p> <p>2) 懇親会 1/30 神戸旧居留地ヴィラブランシュ 参加者 15名</p> <p>3) 近畿建築士会協議会女性部会(近建女) 6/10 幹事会 大阪府建築士会事務局 参加者 2名 10/24 合同見学会 滋賀県近江八幡市 参加者 3名 ～八幡堀の再生からはじまった市民中心のまちづくり～</p> <p>4) 全国女性建築士連絡協議会(全建女) 7/17-18 長野市 参加者 5名 テーマ「地域と共生する住環境づくり」～建築における「環(WA)」を考える～</p>
研究部会	<p>1) 世話人会 5/19</p> <p>2) 研究会の開催 「ユニバーサルデザイン研究会」「家族と住まい方研究会」「木構造木造住宅研究会」「見学研究会」</p> <p>3) 冊子 “ユニバーサルデザインの視点から探る 「住み続けることが可能な住宅」の基本” 企画編集(5月発行)</p> <p>4) 加古川支部との連携事業「加古川支部ユニバーサルデザイン研修会」 9/2 高砂市総合体育館会議室にて 参加者 25名</p> <p>5) 車いす体験学習と旧木下家住宅見学会 11/14 参加者 17名 神戸学院大学有瀬キャンパス 指導:糟谷佐紀先生 舞子公園内「旧木下家」案内:尾瀬耕司氏 (健康な住まいとくらしを考える会、高齢社会の建築研究会との共催)</p>
普及啓発部会	<p>1) 神戸市すまいの安心支援センター委託セミナー企画運営 11/28 「快適! エコも取り入れた家づくり」 ～省エネ・エコを考えた家づくりの現場から～ 講師: 自立循環型住宅研究会 木津田秀雄氏、澤木久美子 参加者 15名</p> <p>2) 市民対象セミナー開催(ユニバーサルデザイン建築研究会との共催) 2/7、2/21、3/7 「建て替え知らずのマイホームづくり」 ～住み続けるための知恵と工夫」参加者 69名 講師: 木下功、常俊桂子、野崎瑠美、日高俊二、八木景子</p> <p>3) パネル「循環する木の住まい」展示 3/3～3/10(伊丹イオンモール)</p>

■平成22年度

委員会	4/24、6/12、9/4、11/6、2/5、3/5
女性部会	女性会員(兵庫県、近畿、全国)交流事業、ホームページなどで情報提供
	<p>1) ブロック見学会&淡路支部との交流会 9/11 参加者 27名+淡路支部から6名 ～淡路の”地域に根ざす建築”を訪ねる～ アート山大石可久也美術館:大石画伯夫妻と建物設計者による説明と案内、 洲本図書館(旧鐘紡工場跡):図書館長の説明と案内、勝願寺:設計者の説明と案内 洲本の創作和食店において洲本支部の皆様との交流会</p> <p>2) 懇親会 2/5 老香港酒家にて 参加者 17名</p> <p>3) 近畿建築士会協議会女性部会(近建女) 6/8 幹事会 大阪府建築士会事務局にて 2名出席 9/18 合同見学会 奈良担当 ～平城遷都1300年祭と第一次大極殿～ 参加者 8名 1/12 幹事会 大阪府建築士会事務局にて 1名出席</p> <p>4) 全国女性建築士連絡協議会(全建女) 7/16-17 東京 参加者 6名 テーマ「女性建築士の新たな出発」※平成2年に第1回が開催されて20年の節目の大会</p>

研究部会	建築士としての研鑽・技術向上のための研究会を開催
1)世話人会	6/5
2)研究会の開催	ユニバーサルデザイン研究会－11回開催 家族と住まい方研究会－11回開催 木構造木造住宅研究会－5回開催 よろず建築文化研究会－1回開催 見学研究会－1回開催
普及啓発部会	一般市民に建築・暮らしなどの情報を提供すると共に、建築士や士会の役割を社会にアピールする
1)神戸市すまいの安心支援センター委託セミナー企画運営	11/6「色彩の魔法」 ～すまいのカラーデザインセミナー～ 参加者 31名 講師:杉本雅子、矢代恵 グループワークスタッフ:常俊桂子、東影みどり、森澤理恵子、八木景子、鷲尾真弓
2)市民対象セミナー開催(ユニバーサルデザイン建築研究会との共催)	10/9、10/23 たちばな NPO プラザ(尼崎市)にて 「建て替え知らずのマイホームづくり ～住み続けるための知恵と工夫」 参加者延 30名 講師:ユニバーサルデザイン研究会 木下功、高松範明、常俊桂子、野崎瑠美、日高俊二、八木景子
3)すまいるネット連携セミナー開催(健康な住まいとくらしを考える会との共催)	7/3 すまいるネットセミナールームにて 「すまいにしのび寄るシロアリ被害の現状とその対策 ～アメリカンサインアリの最新情報」 参加者 30名 講師:京都大学大学院農学研究科准教授 藤井義久先生

■平成 23 年度

委員会	4/9、6/11、9/3、12/10、1/14、3/10
女性部会	女性会員(兵庫県、近畿、全国)交流事業、ホームページなどで情報提供
1)ブロック見学会	11/12 参加者 13名 ～西播磨の歴史と建築を訪ねる～ 網干 加藤家(建築家:栗林郁子様、御当主加藤様によるご案内)庄屋の見学 「室津館」・「室津民族資料館」の見学とまち歩き(講師 嶋屋友の会事務局長 柏山泰訓様) 坂越 「旧坂越浦会所」「奥藤酒造」「大避神社」秦氏遺跡など(講師:牟禮宗弘様) 室津で地元の海の幸を頂きながらの交流会
2)懇親会	1/14 La Bruxelloise ラブリユッセロワーズにて 参加者 12名
3)近畿建築士会協議会女性部会(近建女)	6/10 近建女第1回会議 参加 2名 大阪府建築士会事務局にて 8/29 近建女第1回WEB会議 参加 2名 11/13 (社)奈良県建築士会 女性委員会 20周年記念イベント 参加 1名 11/17 近建女第2回WEB会議 参加 2名
4)全国女性建築士連絡協議会(全建女)	2/17・18 京都 参加 4名 テーマ:景観まちづくりからコミュニティの再構築へ～京都で考える 日本のまちと暮らし～ 参考:連合会 HP 大会報告 http://www.kenchikushikai.or.jp/torikumi/news/2012-04-19.html
研究部会	建築士としての研鑽・技術向上のための研究会を開催
1)研究会世話人会	6/11
2)研究会開催状況	ユニバーサルデザイン研究会 - 9回 家族と住まい方研究会 - 10回 木構造・木造住宅研究会 - 4回 よろず建築研究会 - 1回 見学研究会 - 2回 (姫路城見学会・芦屋個人住宅見学会)

普及啓発部会	一般市民に建築・暮らしなどの情報を提供すると共に、建築士や士会の役割を社会にアピールする	
1) 神戸市すまいの安心支援センター委託セミナー企画運営	11/26 明かりの工夫でもっと素敵な毎日を！ ～省エネ時代に快適に住まう照明テクニック～ 講師：長町志穂氏(株式会社 LEM 空間工房)	参加：30名
2) 共催セミナー	7/2 健康な住まいと暮らしを考える会共催 「今こそ省エネ、本気で省エネ」 ～未来の子供たちのために、今私たちができること～建て方の工夫、暮らしの工夫 講師：澤木久美子氏(アトリエ空一級建築士事務所) 米谷良章氏(米谷良章設計工房)	参加：25名
	H24/3/16・3/30・4/13・4/27 木構造・木造住宅研究会共催(4回シリーズ) だれでもわかる省エネセミナー ～必見！確認申請にかかわる省エネ処置の届出克服～ 講師：西原誠助氏	参加：31名

■平成 24 年度

委員会	4/28、6/23、9/1、10/27、12/22、1/19、3/9	
女性部会	女性会員(兵庫県、近畿、全国)交流事業、ホームページなどで情報提供	
1) ブロック見学会及び交流会	～尼崎体験型見学会と寺町めぐり～ 2013/2/2 参加者 10名 日亜物産株式会社野菜工場見学、コベルコ研修所乗車・操作体験、尼崎寺町めぐり かき金にて、交流・懇親会	
2) 近畿建築士会協議会女性部会(近建女)	4/19 滋賀県建築士会女性委員会姫路城見学案内 6/15 近建女第1回定例会議 参加 2名 大阪府建築士会事務局にて 8/19 近建女交流会 琵琶湖ペーロン大会 参加 2名 11/3 近建女合同見学会 和歌山市加太周辺と友ヶ島見学 参加 6名 12/15 近建女第2回定例会議 参加 2名 大阪 美々卯本店 H25/ 12/13 京都建築士会女性委員会姫路城見学案内 2/2 彦根建築会姫路城見学案内 3/30 近建女交流会 京都大山崎見学会 参加 2名	
3) 建築士会全国大会 茨城大会 (交流セッション参加)	10/19 参加 3名 テーマ:東日本大震災に思う、女性建築士の視点から -リスクの認識・共有・対策-	
研究部会	建築士としての研鑽・技術向上のための研究会を開催	
1) 研究会世話人会	6/17	
2) 研究会開催状況	ユニバーサルデザイン研究会 - 9回(公共施設のUD実地検証及び検討・報告会) 研修会-1回、神戸市主催UD取材参加-1回 家族と住まい方研究会 - 11回(文献調査や見学、インタビューなど) 木構造・木造住宅研究会 - 4回(構造現場の見学及び省エネセミナー開催) よろず建築研究会 - 1回(おいしい企画 vol.森のアトリエでごはんの会) 見学研究会 - 1回(阪神甲子園球場見学会)	
普及啓発部会	一般市民に建築・暮らしなどの情報を提供すると共に、建築士や士会の役割を社会にアピールする	
1) 神戸市すまいの安心支援センター委託セミナー企画運営	11/26 「住まいの緑」再発見！ ～樹木から観葉植物まで、さまざまな空間での効果的な緑の演出～ 講師：藤山 宏氏(有限会社 造景空間研究所)	参加：20名
2) 共催セミナー (前年度からの継続事業)	H24/3/16・3/30・4/13・4/27 木構造・木造住宅研究会共催(4回シリーズ) だれでもわかる省エネセミナー ～必見！確認申請にかかわる省エネ処置の届出克服～ 講師：西原誠助氏	参加：31名

30周年準備委員会	1983年(昭和58年)5月、女性委員会の前身である女性部会が創立し2013年(平成25年)に30周年となる。その記念事業の準備委員会を今年度途中より開催した。		
10/5	第1回準備委員会	参加者	12名
H25/2/27	第2回準備委員会	参加者	6名

■平成25年度

委員会	4/6、6/15、7/27、9/7、10/26、12/14、2/1、3/1		
女性部会	女性会員(兵庫県、近畿、全国)交流事業、ホームページなどで情報提供		
1)地域巡回見学会及び交流会	30周年記念事業～建築と伝統芸能を学ぶ 第1弾 in 高砂～ 2014/6/23 参加者16名 高砂地区町家見学・まち歩きと高砂神社能舞台工事現場見学		
2)近畿建築士会協議会女性部会(近建女)	6/15 近建女第1回定例会議 参加2名 大阪府建築士会事務局にて 11/2 近建女合同見学会 京都大学近代建築見学会 参加8名 12/21 近建女交流情報交換会 グランフロント大阪ナレッジキャピタル4階 2名 H26 1/21 近建女第2回定例会議 参加2名 大阪		
3)全国女性建築士連絡協議会(全建女)東京大会	参加4名(内1名活動発表者) テーマ:「地域と共生する居住環境づくり」～見直そう、これからの住環境と暮らし方～ 7/13 全国女性委員長会議 基調講演:天野彰氏による「江戸の学ぶ狭楽しさ」 活動発表会(兵庫よりユニバーサルデザイン研究会の活動発表が行われた) 東北大震災被災地における現状報告と取り組み 7/14 8分科会に分かれての活動発表及び意見交換会		
研究部会	建築士としての研鑽・技術向上のための研究会を開催		
1)研究会世話人会	8/3		
2)研究会開催状況	ユニバーサルデザイン研究会 - 8回(公共施設のUD実地検証及び検討・報告会) 研修会-1回(カラーUDについて) 木構造・木造住宅研究会 - 1回(つよい木造住宅の作り方セミナー開催) よろず建築研究会 - 1回(伝統芸能「能」の魅力～建築的アプローチを深めるために～) 見学研 - 30周年記念事業～建築と伝統芸能を学ぶ 第1弾 in 高砂～担当		
普及啓発部会	一般市民に建築・暮らしなどの情報を提供すると共に、建築士や士会の役割を社会にアピールする		
1)神戸市すまいの安心支援センター委託セミナー企画運営	11/30 もうリバウンドしないお片付け～人と物の動線からわかること～ 講師:大塚典子 参加者:11名		
30周年記念事業	1983年(昭和58年)5月、女性委員会の前身である女性部会が創立し本年30周年となる。		
「しなやかに・・・たおやかに・・・」伝統芸能「能」の空間世界を体験する	9/28 セミナー-伝統芸能「能」の魅力と能舞台 講師:杉本雅子・矢代恵 参加21名 女性委員会30周年記念懇親会 会場:芦屋モリス 参加19名 能楽体験 仕舞実演とワークショップ 観世流能楽師:武田宗典氏・長山耕三氏 会場:芦屋能舞台 参加24名		

3 女性部会 主な活動（平成21年度～25年度）／2010年4月～2014年3月

ブロック活動見学会 & 懇親会 抜粋

建築士会女性会員は、県下各支部にて登録されていますが、研究会などの活動は神戸・阪神間に偏りがちです。そこで、兵庫県下各地を訪れ、見学会を兼ねて、通常は参加しにくい地域の女性会員と交流することを目的としています。懇親会は、年に1回、美味しいものをいただきながら、女性会員の交流をはかっています。

平成21年度 9/12 ブロック見学会 ～北播磨の建築とまちなみの魅力を探る～ & 1/30 懇親会

◆ブロック見学会◆ 社支部との交流も兼ねて、播州織で知られる「西脇市」を中心に北播磨を訪れました。大正7年竣工の「旧来住家住宅」やNHKテレビ「美の壺」で紹介された昭和初期の木造校舎「西脇小学校」（兵庫県景観形成重要建造物）、朝光寺（国宝）、小野浄土寺（国宝）を見学しました。

◆懇親会◆ 神戸旧居留地にある一軒家のフレンチレストラン「VILLABLANCHE」にて、美味しいお料理とお酒を頂きながら、優雅なひと時を過ごしました。

写真：左（西脇小学校にて）、右上（店舗外観）、右下（VILLABLANCHE 内にて）



平成22年度 9/11 ブロック見学会 ～淡路の”地域に根ざす建築”を訪ねる～ & 2/5 懇親会

◆ブロック見学会◆ 淡路支部との交流も兼ねて、淡路島北部を訪れました。アート山大石可久也（山を含めた敷地全体が芸術作品で成長する）美術館を設計者の奥井正造様にご案内頂き、午後は、閉鎖されたレンガ建物群を再生利用した建築家鬼頭梓氏による図書館を見学、地元住民の寄付で建設された「勝願寺」を設計者の原久雄様にご案内頂き、伊弉諾神宮参りました。

◆懇親会◆ 広東料理「老香港酒家」にて、本場、香港の味を心ゆくまで味わいました。

写真：左（アート山大石可久也美術館にて）、右（老香港酒家にて）



平成 23 年度 11/12 ブロック見学会 ～西播磨の歴史と建築を訪ねる～ & 1/14 懇親会

◆ブロック見学会◆ 西播磨を訪れました。国の登録有形文化財にも指定されている網干の「加藤家住宅」にて、まちづくり活動や文化活動などについてレクチャーを受け、昼食は室津でかきを中心とした海の幸を堪能。歴史を解説頂きながら、伝統的町家を保存・改修した「室津民俗館」、「室津海駅館」で見学・レクチャーの後、湾の形状に沿った街並みを散策。最後に坂越を訪れ、「坂越まち並み館」や「旧坂越浦会所」(復元)などを見学しました。

◆懇親会◆ ベルギー料理のお店「La Bruxelloise(ラブリュッセロワーズ)」にて、ベルギービールと料理を堪能しました。オーナーシェフより、ベルギー人の暮らしの価値観と食に対する考え方、ベルギーの旅情報など、お店にある本などを見ながらお話していただき、情報交換・近況報告などで懇親を深めました。

写真: 左(加藤家玄関前にて)、右(La Bruxelloiseにて)



平成 24 年度 2013/2/2 ブロック見学会 ～尼崎体験型見学会と寺町めぐり～ & 懇親会

◆ブロック見学会&懇親会◆ 車で尼崎の海側を中心に、産業・名物・歴史ある町並みを見学。野菜工場では、完全無菌室を見学し、栽培された野菜の試食。コベルコ教習所では、ショベルカー、フォークリフトを乗車体験。懇親会を兼ねた昼食後、阪神尼崎駅から南に位置する寺町をボランティアガイドさんの案内で見学し、めったに入れないらしい阪神電車旧倉庫(レンガ造)を見学することが出来ました。

写真: 左(阪神電車尼崎駅前広場にて)

中(コベルコ教習所にて)
右(阪神電車旧倉庫)



平成 25 年度 6/23 30 周年記念事業 ～建築と伝統芸能を学ぶ 第 1 弾 in高砂～

能全体の代表作といわれる「高砂」の舞台となった高砂の地を訪れました。高砂神社で建築中の能舞台の工事現場を見学し、併せて、江戸時代に姫路藩より計画的なまちづくりが行われ、近代以降、産業都市として発展した高砂の堀川周辺のまち歩きを行いました。



近畿建築士会協議会女性部会(近建女)合同見学会 抜粋

近畿6府県の女性建築士の交流を図るため、各府県女性委員会(部会)が持ち回りで、合同見学会を企画しています。平成19年度は兵庫県が担当で、同じく担当県となっていた近畿建築祭の見学コースの一つとして企画しました。

平成21年度 10/24 滋賀県近江八幡市 ～八幡堀の再生からはじまった市民中心のまちづくり～

市民が中心となり八幡堀の再生が始まり、まちづくりへと広がった『近江八幡市の八幡堀周辺』を散策し、水郷めぐりを体験、そして、研修として、午前は、『近江八幡におけるまちづくり』と題して、中田全一氏(「よみがえる近江八幡の会」会長、「まちづくり研究会-近江八幡」代表)に講演して頂きました。午後は、2つのコース、「はちまんまちづくり『間』の会」と歩く伝建地区・町家活用見学コースと、「NPO法人ヴォーリズ建築保存再生運動『一粒の会』」と巡るヴォーリズ建築コースに分かれ、見学しました。



平成22年度 9/18 奈良県 ～平城遷都1300年祭と第一次大極殿～

猛暑日であったこの日、とても広い平城宮跡、跡なので日影もなくカンカン照りの中、歩きました。講演「平城宮第1次大極殿の復原」と題して、実際に関わられた島田様に講演頂き、昼食は、古代米や酥、唐菓子を頂くことができました。午後は、「第1次大極殿」を説明頂きながら見学しました。



平成23年度 (全国女性建築士連絡協議会と合同)

平成24年度 11/3 和歌山県和歌山市 ～加太周辺と友ヶ島見学～

午前中、昭和13年に建てられた橋本市の高野口小学校の木造校舎の改修を廻る経緯や手法など「改修後の高野口小学校」をテーマに、和歌山大学システム工学部教授本田友常氏による講演があり、昼食は、休暇村加太にて、たこしゃぶ、鯛のあらだきなど海の幸の会席料理に舌鼓を打ちました。午後は、



加太港から船で30分の友ヶ島へ。今回は「沖の島」を



訪れました。旧陸軍によって造られ、2003年に「土木遺産」にも選ばれた「友ヶ島砲台群」や、「日本の灯台の父」と呼ばれる英国人技師R・H・ブランドンの設計による友ヶ島灯台(今回の見学コース外)など、自然あふれる見どころがたくさんありました。

平成 25 年度 11/2 京都府 ～京都大学近代建築見学会～

午前中は、京都大学大学院工学研究科建築学専攻教授 高田光雄氏による『京都大学における住宅研究』、京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科教授 石田潤一郎氏による『京都大学キャンパスの近代建築』の講演頂きました。お昼は、芝蘭会館別館・レストランしらにて、美味しいフレンチを堪能し、午後から、京都大学内の旧第三高等学校物理学実験場をはじめ、土木工学教室本館、文学部陳列館、旧付属図書館事務室などの煉瓦建築や、時計台では、外観のみならず内部空間も見学しました。



全国女性建築士連絡協議会(全建女) 抜粋

全国の女性建築士が年1回一堂に会し、活動報告や情報交換を行うもの。東京と全国各地と交代で開催されます。震災で一旦は計画を断念した兵庫県でしたが、平成15年に「復興」をテーマに開催することができました。その後も、分科会でのコメンテーター、パネルディスカッションへの参画など積極的に参加しています。

平成 21 年度 7/17～18 長野県長野市 「地域と共生する住環境づくり」～建築における「環(WA)」を考える～

1日目は、「ふるさとと信州・環の住まい」と題し、吉田倬郎氏に講演頂き、夜は、400人ほどでの懇親会が行われ、美味しい食事、お酒を飲みながら、たくさんの方と交流しました。二日目は、8分科会に別れ、発表や意見交換をし、良い刺激を受けました。



平成 22 年度 7/16～17 東京都 「女性建築士の新たなる出発」

全体会では、8分科会からの報告がコーディネーターから行われたあと、全体総評を兵庫県建築士会の会員であり、連合会副委員長の内平節子さんが行いました。女性視線を発するプラットフォームであること、それはマイナー意見を吸い上げ情報発信するなど、きめ細やかな女性の特性、男性と違う感性と活動力を生かすことが再認識されたのではないのでしょうか。



平成 23 年度 2/17～18 京都府 ～景観まちづくりからコミュニティの再構築へ～ 京都で考える日本のまちと暮らし

本年は、3月11日に東日本大震災という、これまでに経験をしたことのない広範囲で大規模な災害が発生し、7月開催予定が2月に延期されました。連綿と伝えられた知恵に学び、これからの私たちが何を守り・伝え・創っていくかを考える大会となった。1日目は、東北各県の現状報告と京都大学教授の高田光雄氏による基調講演「京都の景観から考える地域のまちづくり」が行われ、2日目は、雪の中、12コースのフィールドワークがあり、その後、8分科会に別れ、意見交換や各地の活動発表がありました。



平成 24 年度 10/19 全国大会いばらぎ大会(交流セッション②参加)
～東日本大震災に思う、女性建築士の視点から～ リスクの認識・共有・対策

岩手県建築士会女性委員会「花咲プロジェクトからみえてきたこと そしてこれから」として、仮設住宅にて、みんなで花や野菜を植えて、お話をして交流が行われました。宮城県建築士会女性部会「被災地視察～全国の仲間とつながる」として、連合会女性委員が全国から、視察に訪れた。福島建築士会女性委員会「福島の現状と除染の状況」として、士会女性委員会「東日本大震災・関東の被災状況について」として報告があり。その後、パネルディスカッションが7名で行われました。



平成 25 年度 7/13～14 東京都「地域と共生する居住環境づくり」～見直そう、これからの住環境と暮らし方～

メインテーマは変えずに継続して掲げて、サブテーマに東日本大震災と高齢者の2つのキーワードを盛り込んだ内容でした。「女性建築士として、地域に根づいた活動を行い、次世代を担う子供達や生活の礎を築いてこられた高齢者にとって、安全で安心できる暮らしを提案していきます」などとした4項目のアピールが行われました。また、1日目の活動発表の中で、兵庫県建築士会の会員である常俊桂子さんが、「ユニバーサルデザイン研究会」の活動について発表しました。

